

「おかしいな」と 思ったときの学生指導

看護学生の生活は、講義・演習・実習と多忙を極めます。新入生では、親元を離れて一人暮らしを始める学生も多く、生活環境が大きく変化しますし、在學生も学年が上がるにつれ求められる知識・技能が高くなり、いたるところに不安や困難を感じています。そんななか、時にはストレスや不適切な生活習慣などにより、心身に不調をきたしてしまうこともあります。

また学生時代は、年齢的にも自らの判断で行えることが増え、交友関係も広がり、さまざまな誘惑にさらされる時期でもあります。看護師になるという強い目的意識をもっていても、モチベーションを高く保ち続けるのは簡単ではなく、つい勉強が疎かになってしまうこともあるかもしれません。これらの理由から、学業が大幅に遅れたり、なかには継続を断念せざるを得なくなったりしてしまう学生がいるのが現状です。

では、学生をそのような事態に陥らせないために、また、より学習に集中しやすい状態に導くために、教員として何ができるのでしょうか。学生に異変が起こるとき、多くは事前に小さな兆しが見られるはずです。本特集では、「おかしいな」をキーワードに、学生指導について考えてみたいと思います。